

『第12回 関西がん治療と妊孕性温存の勉強会』のご報告

師走に入り、寒さも本格的になってまいりました。

2021年11月14日にIVF大阪クリニックで開催しました『第12回 関西がん治療と妊孕性温存の勉強会』のご報告です。COVID-19感染拡大の影響により延期をしておりましたが、十分な感染対策を考慮し、2年ぶりに現地開催いたしました。

今回はIVF大阪クリニックの藤岡聡子先生から『生殖補助医療による妊孕性温存の実際』と大阪国際がんセンターAYA 世代サポートチーム・血液内科の多田雄真先生から『血液がんと妊孕性温存治療について』 京都橘大学の上澤悦子先生から『がん・生殖看護におけるカップルへの共有意思決定支援』について講演をしていただきました。血液疾患での妊孕性温存は、時間との戦いであることや、いずれ造血幹細胞移植が行われる可能性があることで、温存治療を考慮する必要があります。事例検討の中で、がん治療優先により採卵目的のホルモン注射刺激中に中止を選択せざるを得なかったり、卵子確保ができなかったりなどの喪失感に対する看護支援の大切さを考えさせられました。また男性事例では、体調不良によりがん治療施設での採精のため、環境を整えることや、未成年の妊孕性温存に対する意思決定支援をどのようにするのか、ということも検討されました。参加者のアンケートでは、「妊孕性温存の実際や意思決定支援について理解が深まった」「参加できなかったスタッフと共有したい」など今後の実践に役立つ内容だったという感想でした。また「特に異性の場合セクシャリティに関するコミュニケーションが難しい」「小児患者への関り、説明などのケアについて知りたい」など、現場で困っている課題も出ており、今後の勉強会内容として検討していきたいと思います。今回の勉強会も「今後の看護実践の参考になった」と参加者全員から回答いただき、また久しぶりに顔を合わせて交流・連携できた有意義な時間だったと思われまます。

今後も内容検討し、実践につながる勉強会を継続していきたいと思ひます。

IVF大阪クリニック 小松原千暁
越田クリニック 藤島由美子